資料

第7回 JR古賀駅周辺開発推進協議会 議事要旨

日　時		令和8年8月7日（金） 13時00分～14時15分	
場　所		古賀市役所 2階 中会議室	
出席者 （敬称略）	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授	星野 裕司
		花鶴タクシー有限会社 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部地域交通まちづくり部交通・開発計画 副課長	髙橋 拓大
		西日本鉄道株式会社 自動車事業本部地域ネットワーク担当課長	池田 舞
		福岡県粕屋警察署 交通第一課長	木村 優一郎
		古賀市行政区 古賀東区長	髙原 伸二
		古賀市行政区 古賀北区長	荒牧 明文
		古賀市行政区 古賀南区長	馬場 實
		古賀市商工会 会長	藤井 博文
		福岡県公立古賀竟成館高等学校 教頭	安田 充孝
		福岡女学院看護大学 事務部長	吉松 朋之
		ニビシ醤油株式会社 総務部 取締役総務部長	末松 裕也
		独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生業務部 部長	長江 亮
	事務局	建設産業部古賀駅周辺開発推進課	
	オブザーバー	株式会社日建設計	大川 雄三 松尾 健吾 緒方 陸人
		株式会社 RFA	武智 大祐 西野 翔
		株式会社 ダイスプロジェクト	木村 隆志 田崎 祥子
配布資料		・座席表 ・資料1 委員名簿 ・資料2 次第 ・資料3 古賀駅前をテーマにしたワークショップ・シンポジウムの報告 ・資料4 古賀駅西口駅前広場整備案 ・資料5 今年度実施する沿道利活用社会実験について ・資料6 JR古賀駅周辺官民連携ウォーカブル社会実験補助金 ・参考資料1 昨年度実施した社会実験について	

＜議事要旨＞

1．開会

2．主催者挨拶

3．説明および意見交換

（1）古賀駅前をテーマにしたワークショップ・シンポジウムの報告（資料3）
意見なし

（2）古賀駅西口駅前広場整備案の検討状況について（資料4）
意見なし

（3）今年度実施する沿道利活用社会実験について（資料5、参考資料1）
【意見交換】
（委員）
社会実験では、車の通行だけでなく、自転車の検証もする必要があるのではないか。車が1台しか通れないような一方通行の細い路地もあり、自転車がどういう動き方をするのか、歩行者の方やお年寄りの安全安心に関係してくるので検討してほしい。

（事務局）
自転車については、日常の動きとイベント時の動きとで違うところがあると思われるので、その点も踏まえながらできる範囲で考えたい。

（委員）
社会実験の取組について、当日だけでなく、プレイヤーを発掘する公共空間オトナ実験室のワークショップは非常によい。プレイヤーを発掘すると同時に、この取組が設計でも活かしていくことが大事である。例えば、こんな備品があったらよい、日陰がどれぐらいほしいなど、直接プレイヤーからの声を拾うことで、根拠を持って設計に反映できるようになる。
また、これは委員皆様への要望にもなるが、10 月 31 日の振り返りをするワークショップでは、この開発推進協議会からも参加して、しっかりバックアップしている姿勢を見せることも大事なのではないか。
最後に、今回の社会実験では古賀駅から商工会館前を通ってサンリブへの流れがしっかりできるかが重要。そのためにも、図で示される⑥の県道沿いがすごく大事になってくると思われるので、そこは是非頑張ってほしいと思う。

（事務局）
1点目について、今現在、必要な備品等について事業者の声を拾う取組をしている。1つのエリアだけでなく、全体としてどれぐらい必要か、行政としてどれぐらい持っておくべきなのかということも含めて、今後、議論できればいいと思っている。
2点目について、10 月 31 日の振り返りをするワークショップは事務局のほうでフォローし、改めて後日報告したい。
3点目について、今回は、社会実験が 10 時～16 時、夜市が 18 時～21 時と続けて実施することとしている。⑥の県道沿いのところに関しては、夜市側での出店も聞いているところもあるので、一緒にご相談していけたらと思っている。

（委員）
今年度の社会実験では沿道を活用するという考えで2箇所の車両進入禁止が予定されているが、県道を通過するバスは通常通りで、新たな規制等は無いと理解してよいか。

（事務局）
通常通りである。

（柴田会長）
歩行者の交通量調査などを詳細に取らないとのことだが、回遊性の面でサンリブ古賀側から商店街側へどの程度人が流れたのか確認することも必要ではないか。商店街側の方にもメリットが出るように、サンリブ側から商店街へ人が歩いてもらうような情報発信をして歩いてもらえるような波及効果がでるか検証していければいいなと思う。

（事務局）
これまで面的に調査をやってきており、同様の規模で実施するのは予算的にも厳しいところである。ただ、

どれだけ人が歩いているかというのは、アンケートの数や配布した資料の数など、まだ検討中であるが、そういった手法で把握していきたいと思っている。
　商店街側では、今回何もしないわけではなく、駅前広場での取組等で商店街側へ人を流すやり方を検討している。面的な回遊性は、JR 古賀駅周辺官民連携ウォーカブル社会実験補助金の採択事業で西口のマップ作りを計画している事業者がいるので、そこと連携できないか話を進めている。

(4)JR古賀駅周辺官民連携ウォーカブル社会実験補助金について(資料6)
【意見交換】

(委員)
　社会実験で反対を唱えるわけではないが、社会実験だけではなく、現実的にどれだけの予算で、いつから形あるものの整備が進んでいくのかを伺いたい。

(事務局)
　古賀駅西口の駅前広場は、今年度、都市計画の変更に向けて手続き中である。今年度は、その手続きと並行して社会実験をしているが、社会実験によって事業化が遅れるということではない。社会実験の結果を設計に反映していくようなことを考えている。
　また、今年度は、憩いの広場と商工会館のリニューアルに向けて両施設とも実施設計をしており、来年度に工事を行う予定である。まず、そこが大きく目に見えて変わってくる部分になるのではと思っている。

(柴田会長)
　社会実験ばかりという声があるのは当然で、小さなゴールを少しずつ積み重ねて進めていただけたらと思う。憩いの広場と商工会館が来年度に工事に入っていくというのは1つの区切りと思われる。

(5)古賀駅東口の土地利用検討状況について
　意見なし

・全体を通しての意見交換
【意見交換】

(委員)
　3回開催された古賀駅前をテーマにしたワークショップでは、市民の方の熱量が高くて非常に面白かった。そして、その形が少しずつでも早く見えるようになり、その展開がなされていくうえで、みなさんの思いに応えながらつながっていくということが大切である。ただ、ワークショップの参加者を見ると、若者の参加が少なく感じた。若者の声はどのように吸い上げながらやっているのか。

(事務局)
　今回のワークショップは、ホームページでの募集や、積極的に活動されている方に個別にお声かけをしたところである。若い方に限らず、若い方も含めて、もっと広くいろいろな方が意見を言えるように、対面でも web 上でも準備していけたらと思っている。

(柴田会長)
　以前、基本計画を策定する際は、大きな全体ワークショップを開催して、古賀竟成館高校の生徒の皆さんもたくさん参加して意見をいただいたと記憶している。今の意見は十分に踏まえていければと思う。

(委員)
　前回の社会実験の報告会が商工会館で行われていたが、古賀南区の方がほとんど来ていなかった。回覧板は回っていたが、果たして地域の人の理解がどこまで進んでいるだろうか。ほとんど誰も出てきていないことに対して、どのような形で広げていくか一緒に考えないといけない。地域に聞いても、社会実験やってたねというぐらいの回答しか来ていないような状況がある。
　また、古賀駅西口の駅前広場の敷地の広さはこれで十分で最終的な案になるのか。最終的な案なんだという考えであれば、西口の発展につながる起爆剤になるかどうか、今しかできないことを思い切ってやっていただきたいと思う。

(事務局)
　1点目について、ホームページなどで情報発信をしているが、確かに前回の報告会の参加者は少なく、周知方法の工夫は必要だと思っている。今年度は 10 月に社会実験を実施するが、実施する前に意見交換会を行うことを考えている。これまでは、回覧板による案内を1回としていたが、2 回、3 回と複数回ご案内をかけたり、他の方法も考えている。そこで、なるべく古賀駅西口の取組を知っていただきたいし、お声があるのであれば、意見交換会にご参加いただけるよう取り組んでいきたい。

2点目について、古賀駅西口駅前広場の規模は、予算も踏まえて検討していくところで、最終的な案ではないが、基本設計のこの案をベースに、今後は詳細設計に入っていきたいと考えている。

4. 閉会

以上